

教育 GP 取組プログラムの進捗報告と教育課程科目における 実践事例報告

——教育 GP「課題探求能力」の育成に関連した
必修科目「経済学概論」の授業実践——

仁 井 和 彦

Progress Report on the Education Good Practice Program and Case Study:
Application of the “DIY” Education System to Lecture “ECONOMICS”

Kazuhiko Ni

はじめに

本稿は、2部から構成される。第Ⅰ部の「フォーラム(9)「社会を知る」での報告内容」は、平成22年2月25日まほろば運営委員会主催FDフォーラム(9)「社会を知る」において報告した内容を一部加筆修正したものである。第Ⅱ部の「教育GPの取組における事例研究「経済学概論」」は、平成22年度前期授業における筆者担当科目の「経済学概論」をもとに、秘書科が現在取組中の教育GPにおける教育課程での個人的な実践事例の報告である。

「社会を知る」とは、まほろば運営委員会FDフォーラムでの「安田を知る」「自分を知る」「学びを知る」「社会を知る」の最終項目「社会を知る」を意味する。

また、ここで言う教育GPとは、文部科学省「平成20年度質の高い大学教育推進プログラム」に選定された秘書科の取組「『課題探求能力』の育成を目指す教育取組—教育課程と教育課程外諸活動を統合するDIY教育システムの構築—」のことであり、平成20年10月から平成23年3月までの取組プログラムである。

I. フォーラム(9)「社会を知る」での報告内容

1. 概 要

フォーラム当日に配布した資料に記載の報告の構成は、1. 目的(要請された内容)、2. 社会の仕組み(朝ごはんと新聞、ヒト・モノ・カネ・情報、「少子高齢化」「グローバル化」「地球温暖化」、天動説と地動説)、3. 企業と大学(顧客満足度)、4. 学生を知る(学生像の類型化、個別対応策)、5. 秘書科の試み(教育GPと3つのDIY、「課題探求能力」、DIY教育システム、DIYサブシステム、成果)、6. 展開(「信じること」と「耐えること」、クールヘッド・ウォームハート、ソフトヘッド・ハードハート)、7. まとめ、からなる。

上記「1. 目的」について、まほろば教養ゼミ運営委員長より要請された要件は、1. 社会の仕

組みに触れること、2. 企業人として、教員としての経験に基づくこと、3. チューターから学生に伝えることが可能なこと、であり、具体的な内容は、①社会で通用する人間とは、②社会が求める人材とは、③どのようにして社会で生きていく人間となるか、④学生時代をどのように過ごせばよいか、⑤どのような学生として育っていく必要があるのか、⑥どのような人間になることが大切であるのか、である。

2. 「社会の仕組み」を知る

筆者の担当科目は、「経済」「金融」等ビジネス、社会に関連するものである。学生の政治経済社会への関心は余り高くなく、「よくわからない」「難しい」が第一声である。しかしながら、就職活動が始まるとともに、急に関心を向けざるをえない奇妙な分野である。

「朝ごはんを食べましたか」「新聞を読んできましたか」は、入学前交流会、入学式後の学科別ガイダンス、オープンキャンパス等で、筆者がいつもする質問の定番である。そして、授業でも最初に発する質問の一つである。「朝ごはん」は脳の活動の活発化を促し、「新聞」は政治経済社会の動きを知ることができるとともに、この質問は学生のこれらへの関心度を測る目安になるからである。

長く金融機関で働いている者の多くは、始業時間1時間前には出社し、政治・経済・マーケット情報をチェックしている。とりわけ、日本経済新聞は必需品である。そして、学生に現実の経済の動きを実感させる上において、非常に有用であり、新聞記事を授業でも補助材料として多用している。すなわち、景気動向が、例えば自分の就職活動にいかに関与するかを知れば、他人事ではなくなる。その景気動向をみる上に、為替レートの動き、日経平均株価、金利等の動向は必要不可欠な情報とせざるを得ない。従い、筆者の授業では、「為替レート」「日経平均株価」は学生が事前に調べていなければならない情報の一部となっている。

「需要」と「供給」は学生もよく知っている単語である。需要と供給の状況で価格がどのように変化するか。例えば、トマトの値段が高くなったか安くなったかはすぐ答えても、為替レートの「円安」「円高」の回答には少し時間がかかる。

現在の世界の人口、中国、インド、アメリカ、日本の人口も意外に知らない。また、国の経済力を測る指標として利用される国内総生産 GDP であるが、日本の GDP を知っている学生は皆無に等しい。その GDP において、今年度中国に抜かれると言われるがその意味すること、影響についての考えは全くない。一人当たりの GDP の日本と中国の比較では、日本が中国のおおよそ何倍になるかは、上記の事から、計算根拠を持っていない状況にある。新聞紙面をにぎわす GDP、成長率は、教員も学生の就職を考える上で必須であり、そのために経済動向、完全失業率の数値の動きは重要なはずである。また、BRICs, VISTA, PI(1)GS これらは国名の頭文字からの造語であるが、どこの国を指すかは予想通りに知らない。日本の総理大臣、財務大臣、日本銀行総裁、米国大統領、ロシア大統領等の名前も知っておくべきであろう。

ヒト・モノ・カネ・情報は企業活動には必須である。社会を見る場合もこの視点は欠かせない。これらは就職試験の一般常識、面接時に困らない程度の常識としても必須である。

「少子高齢化」は現在日本が直面する問題である。クイズ問題でとりあげる日本の人口25歳、45歳、65歳の構成内訳を知れば、理解できる。このことは経済成長率、年金問題に結び付く。「グローバル化」の状況は、米国のサブプライムローン問題から派生した「リーマンショック」と世界的金融危機、その後の不況、また、トヨタ自動車社長の米国議会公聴会出席、等から、理解で

きる。

これらのことは、毎日、新聞を読めば、次第に馴染み、全体の状況変化がつかめるようになり、そして、複合的な視点から考えることを平生からする必要があることを意味する。

3. 企業と大学

「社会を知る」を、将来働く企業との関係で考えてみるとどうなるであろうか。企業、大学にとっての「顧客満足度」とは何かを考えたい。企業にとって、買い手が購入した製品の性能、安全・安心、楽しさで測ることができる。大学にとって、顧客とは学生であるが、保護者、高校の先生、企業もステークホルダー（利害関係者）として考えるべきであろう。学生にとっての満足度とは「楽をして、好い成績、資格を取り、希望する会社に就職する」と言うことなのであろう。そもそも、勉強とは本来楽なものであろうか。この点、学生の「授業アンケート」には不満を感じる場所である。ついでながら、筆者は期末に、記名式で授業について感想文を書かせる。無記名の授業アンケートに比べ、教員迎合的な感想もあるが、参考になる建設的な意見も多い。

また、時間観念についてはどうであろうか。「すぐやる。必ずやる。出来るまでやる」と言っている企業経営者がいる。その点、大学は、組織として、柔軟性に欠ける点がある。

4. 学生を知る

学生の満足度を向上させるためには、学生をもっと知る必要があるのではないか。学生は多くの事を求めている。それに応える必要がある。当日配布した資料4は就職活動の中からみた学生像を類型化したものである。ただ、3次元のグラフのz軸である行動力は記載されていない。

学生自身が考え、前向きにもっと勉強したい、そして、行動に結びつけ、推進する「力」を育成したいという考えから、秘書科の試みは始まった。

5. 秘書科の試み

現在、秘書科で推進している取組は、文部科学省の平成20年度「質の高い大学教育推進プログラム」において選定された、秘書科の申請した取組「『課題探求能力』の育成を目指す教育取組」(副題：教育課程と教育課程外諸活動を統合するDIY教育システムの構築)である。

選定された当時、全学教授会で概要を紹介したが、遡れば、平成17年5月頃の秘書科の科会に当時の学長が出席され、今後の秘書科のあり方についての諮問されたところから始まる。諮問を受けて、その後、秘書科内にプロジェクトチームを立ち上げ、「秘書科の将来像確立のために」の報告書をまとめ、学長に提出した。また、平成18年度秋には、平成20年度に秘書科創立20周年を迎えるにあたってのプロジェクトのためのプロジェクト推進室を借りることができた。

このような中で、「4. 学生を知る」で述べた、育成したい学生の力「課題探求能力」を、(1)「なぜ？」を発見し、「なぜ？」に向き合う課題を発見する力[主体的な問題の発見なくしては、真の取り組みはできない。]、(2)自ら考え自発的に行動する力(個の主体性)[問題発見後の具体的な行動が、真の「個」の確立であり、「個の主体性」を有するためにも重要。]、(3)マナーを知り、チームを運営できるコミュニケーション能力[現代社会の組織(チーム)の一員として、円滑な運営には相手の立場に立ったコミュニケーション能力が必要であり、そのためには、身についたマナー、教養が欠かせない。]、(4)組織にコミットし、組織を活性化できる企画力・実行力[組織への確固たるコミットメント(帰属意識と絆)により、組織を引っ張り、組織を活性化する企

画力が必要である。], と名付けた。

そして、3つのDIY [“Do It Yourself” “Do It Yasuda Style” “Dokodemo Itsudemo Yasasiku Tsuyoku” (どこでも いつでも 「柔しく 剛く」)] の「DIY 教育システム」を確立し、「サブシステムの紹介」にある「どこでも Y」「いつでも Y」のふたつのサブシステムの下に、現在、プログラムを推進している。

秘書科の試みの成果としては、FD フォーラム (1) で秘書科立花先生が報告した秘書科憲章「私は、元氣よく挨拶をします。授業中の私語を慎みます。場にふさわしい格好をします。」がある。

6. 展 開

これからなすべきことは多々ある。ポイントは学生を「信じること」ではないかと考える。要求に対し、学生もすぐには応えてくれない。時間が必要である。そのためには「耐えること」がより重要である。

「クールヘッド, ウォームハート」で学生を見守ること, そして、「ソフトヘッド, ハードハート」に対処することが必要である。映画「ラブストーリー」のキャッチコピー「愛するとは後悔しないこと」があてはまる。

7. ま と め

秘書科の将来像は HISHO 科です。H: ホスピタリティ (おもてなし, 思いやりの心を持って), I: インテリジェンス (知恵: 知識を実践に), S: スピーディ, ステディ (仕事は素早く, 着実に), H: ハートフル (心豊かな), O: オープンマインド (心広い) ある学生を, 3つのDIY に向け、「DIY 教育システム」のもとに、「課題探求能力」を育成し, 社会に送り出したい。

朝ごはんはきちんと食べ, 脳を活性化させて1時限の授業から前向きに受けることができ, 毎日, 新聞を読み, 社会をよく知り, 社会が自分に何を期待しているかを考え, 行動の出来る学生である。

秘書科は創立20年を超えたが, 保育科は50年を超えている。保育科科长にはいつも貴重な意見をいただいた。保育科は平成15年度に「特色ある大学教育プログラム」に選定された。秘書科は創立時期では30年遅れであるが, 教育 GP では5年遅れである。短期大学で全 (2) 学科が GP に選定されている例はないのではないか。保育科ともに, 中四国, さらには西日本, そして日本, 世界で一番の短期大学を目指したい。それは, 本学の短期大学のキャッチコピー「短大と言う選択 安田にあります」を実践するということである。

II. 教育 GP の取組における事例研究「経済学概論」

必修科目「経済学概論」は, 筆者からすれば, これほど面白い科目はないと思うのだが, 学生からは, 社会・経済・政治は難しく苦手な科目として, 敬遠されがちである。いかにして, 将来就職し, 社会人としての基本的な知識, 考える方・姿勢を修得してもらうために, 興味を持って受講してもらいたいとの思いで, シラバス・授業方法等を考えた。

1. 必修科目「経済学概論」の概要

(1) 時間割・履修学生

本科目は秘書科1年の必修科目であり、金曜日1時限（9：00～10：30）、7203号室に1年生全員が履修する。教室は正方形よりやや横に幅がある。

(2) シラバス

学生に提示されている内容は下記の通りである。

a. 授業の目標（一般目標）

- ・私たちの生活と経済の関係、経済の仕組み・メカニズム、現実の生活の中の経済問題を理解する
- ・自分の生活の中で経済問題とは何かを考える
- ・経済問題を自分の考えのもとに表現する

b. 授業の概要

授業は、経済学入門として、新聞・雑誌の経済記事を参照しながら、基本的な概念、考え方を説明する。そして、日常用語となっている経済用語、経済情報の理解への手助け、情報入手の習慣化が図れるように構成されている。

c. 到達目標

- ・日々の物価変動の仕組み・メカニズムが理解できる。
- ・社会人となること、就職活動の意味を理解できる。
- ・社会の仕組みを経済学的視点から見ることができる。
- ・ライフプランを経済面から考えることができる。
- ・自分の行動を経済効率的に考えることができる。
- ・経済ニュース等に関心を持って読み、問題の本質を考えることができる。
- ・生活の中の経済問題とは何かを考えることができる。
- ・現実の経済問題のポイントを説明できる。
- ・働くことの意味、自分の支出行動の意味を経済学的視点から説明できる。

d. 授業計画

1. 経済学とは何か、2. 価格の決め方、3. 需要曲線と供給曲線、4. 市場取引と資源配分
5. 経済を動かす力：経済主体、6. 生産・分配・支出の流れ、7. 消費・投資・貯蓄の構造
8. 公共部門：政府と財政政策、9. 海外部門、10. 好況と不況、11. 金融、12. 雇用と賃金
13. 少子高齢化社会の経済、14. 環境問題と経済、15. これからの経済学

e. 評価の方法

授業の参加状況（30%）、課題への対応状況（20%）、定期試験（50%）により総合的に評価する。

f. 授業外学習へのアドバイス

毎日、新聞を読むこと。また、テレビ・ラジオ、インターネット上の政治、経済ニュースに関心を持って、社会の動きを理解するように努めてほしい。

g. 学生へのメッセージ

この授業で経済学的思考方法を身につけてください。現在、将来のあなたの生活を効率性の高いものにするとともに、精神的にも豊かなものにするはずである。

2. 授業方法

(1) 考える授業

教育 GP の課題である「課題探求能力」のひとつである「なぜ？」と考えることを主眼にした授業方法をとるように心掛けた。なぜ、株価、為替レートは日々変動するのか。その背景は何か。すなわち、新聞を読むこと、テレビで報道されるニュースを見ること、等々の日常生活の中から「経済学概論」科目への学習意欲を喚起するように構成している。

(2) 実践的な授業

I 部の 2 項（「社会の仕組み」を知る）にかなり具体的に一部の授業内容を紹介し、また、前項（(2) シラバス）に記載の通り、新聞・雑誌の記事を参照し、現実の社会・政治・経済の動きを確認しながら、基本的な概念、考え方を説明するという授業の進め方を行っている。単なる教養としての知識でなく、この知識は現実の業務、日常生活に必要なものであることを理解し、自らが情報収集、分析、活用したいという意識改革を要請することを主眼にした。

(3) 飽きない授業

毎回、授業の初めには当日の日本経済新聞「WORLD MARKETS」欄の日経平均株価、為替レートの変動の背景を説明した。同じ項目でも数字が日々変動しており、経済のダイナミズムを理解することが、授業を飽きさせないものとした。

学生の知識への願望は強いものであるが、自分の役に立つという実践的な知識にはとりわけ関心が強く、集中した受講態度、積極的な質問につながり、授業を飽きないものにすることが可能である。このような方針のもとに、新聞紙上によくでる多くの経済用語、略語、企業の動き、政府の役割、関係者等々、具体的に、且つ、身近なものとして理解できるように努めた。

なお、学生相互の話し合いの時間、クイズ等の導入により、飽きない授業方法の開拓にも努めた。

3. 成果：学生の感想

本項は、最終講義の残り15分を利用して、A5 判用紙に記名式で、自由記述の方法で書いてもらった「授業に対する感想」の一部を、授業方法に対する成果として、当該学生の感想の全文を掲載するものである。筆者の個別のコメントは差し控えたい。

全体的な印象としては、記名式であるがゆえに、授業評価は若干甘く、自己の対応についてはかなり前向きなものであると理解する。また、自由記述であるために、授業評価の項目は学生によりまちまちである。量的にも、短い感想では1行、長いものは16行であり、また、質的には、日本経済の現状を憂うもの、授業方法へのアドバイス、当日の授業の感想のみ書き記したもの、等々の種々雑多な視点からの学生の評価であった。

なお、当日の出席者数は119名で、全員から回収することができた。例示文の最後の数字は筆者の整理番号である。

(1) 考える授業

- ・「日本の経済・産業の動きを知ることができた。円高が続いているが、不景気から抜き出せたらと思う。少子高齢化、グローバル化等の、地球温暖化の問題の進行に対し、小さなことでも何か始めていくべきだ。不景気が続き、出生率も低下している。何か対策を打たなければ、日本の未来はない。5」
- ・「初めて詳しく経済学を学んだ。出された課題は全て調べてやりました。テストも近いので家

- で勉強しようと思う。結婚は考えていないが、未婚化・少子化の進行を知り、将来結婚も考えようと思った。世界の異常気象、温暖化、豪雨被害は未来にもつながる。経済学で学んだこともこれから先活かしていきたい。13」
- ・「新聞を取っておらず、社会情勢を知るのはテレビのニュースであったが、配布された新聞記事から活字で経済情勢を知ることができ、将来の自分に必要な授業であった。就職活動でも社会情勢を知っていることは必須なので、今後図書館で新聞を読んだり、夏休みは実家で毎日新聞を読むようにしたい。経済は高校でも学習したが、より詳しく、現在の社会情勢を通して学ぶことができた。覚えるだけでなく、自分の考えをまとめ、意見が言えるように成長したい。18」
 - ・「株の読み方や動き方など勉強し、ニュース・新聞の株価が、今はどんな状況か読みとることができるようになった。そして、内閣総理大臣・官房長官などの人名、世界の各通貨、六カ国協議、G7、BRICsの内容（国名）、国内総生産の数字など経済の一般常識も知ることができ。首相交代等、政治も大きく変動しており、ニュース・新聞で今どんな状況かを常に理解できるように目を向けたい。文章でもまとめることができるようにしたい。25」
 - ・「日本の経済状況が分かりやすく説明され、少しわかるようになった。今日本はとても経済的に厳しい国なので、もっと自分の国の経済状況を理解して就職の際に活かしたい。また、株価の変動などにも積極的に興味を持って新聞やニュースを見たいと思う。菅総理が消費税を10%に引き上げるなどと言っているが、消費税を引き上げることで日本経済にどのような影響があるのかも詳しく知りたいと思う。42」
 - ・「世界の経済が日々変化しているのがわかりました。今日の講義の少子化・高齢化は、今でも老人が増えているのに2055年には高齢人口が41%になるのには驚きました。私たちが30~40歳になる時は、今と状況が変わっているので時代に取り残されないように、しっかり世の中に目を向けたい。そして、一人でも十分に生きていけるようにしたい。38」
 - ・「高校時代でも需要と供給について学んだが、余りきちんと理解できていなかった。この授業でグラフの意味も一緒に理解できた。まだ少し難しく感じますが、勉強して理解を深めたい。また、新聞を読む大切さを学んだ。「WORLD MARKETS」を見ていこうと思う。G8、G7、ASEANなど聞いたことはあったけど、全然知らないことばかりで、このほかのものもしっかり頭に入れていきたい。金融のところは少し難しく感じた。テストに向けてしっかり復習して、理解したいと思う。晩婚化が進行しているというのは、悲しい現実だが、私は晩婚にならないように頑張りたい。72」
 - ・「社会や経済について、授業を受け、前より知識がついた。円高・円安になると輸出産業はどうなるのか？を勉強してから、今日本は景気が良いのか悪いのかと考えるようになった。ボーダーレス化、産業の空洞化などは今迄聞いた単語もあり、需要と供給も昔習ったが、余り覚えていなく、図に書くこともできなかった。このような知識を身につけるためにもしっかり復習しようと思った。地球温暖化等の環境問題も経済学と関係があるのだと知った。日本の二酸化炭素排出量は世界第4位で、削減を掲げているが、なかなか難しいと思う。授業は、新聞を読み、考えるので、とても勉強になった。テストも近く、復習したい。74」
 - ・「日本各地のゲリラ豪雨で本気で環境問題について考えなくてはいけないと思った。女性の社会進出は良いと思うが、反面少子化になる気がした。テスト頑張ります。84」
 - ・「高齢化社会、人口減少など、日本国内の出生率低下問題によっておこる問題はドンドン深刻

化していると感じた。しかし、今の経済状況では女性も働きに出なければ生活できないという家庭も多いのではないかと思う。私は今後様々な職を経験したいと思っており、女性の自由が確保されてきた今は、専業主婦を夢見る人は減ってきたのではないかと思う。また、世界中で注目されている環境問題について、今後より一層関心を持って情報を取り込んでいきたい。今迄、経済分野において、知っていたことも知らなかったことも、今後常識と思われるようなことばかりだったので、しっかりと身につけていきたい。株価など、今まで関心の無かったことに対しても目を向けるようになり、よかった。117]

(2) 実践的な授業

- ・「円高・円安、需要と供給について、以前より理解でき、日本経済の現状も知ることができ、役に立つ授業であった。内閣等のプリント、変わっていく経済数値は時々調べるようにしたい。4」
- ・「新聞を読むことに少し慣れてきた。大臣の名前、世界の通貨を調べ、需要と供給もグラフを書くとなってきた。少子高齢化にも興味がある。こども手当が子供のために使われるのか不安である。社会に出ていくに役立つ科目である。6」
- ・「知らなかったこと、聞いてはいるが身につけていないこと、現在の話題まで、“社会”“経済”について、社会人として身につけておくべきことを授業で勉強し、身についた。12」
- ・「経済政治に全く無関心であったが、今は為替の動き、世界の経済まで気にするようになった。最近では毎朝まずニュースを見るようにしているので、経済情報を把握できるようになった。得た知識はまだごく一部だと思うが、今後の目標として、宝の持ち腐れとすることなく、日常生活で使いたい。教わったことは社会では必要なことであり、人生に役立つことだと思う。政治経済は早い速度で変わるので、毎日チェックしておきたい。17」
- ・「毎回授業の初めの平均株価指数の動きから、なんとなくお金の動きが分かりました。今は時々新聞を読むようになりました。お金の流れ、産業、国の役割なども学んだ。知らないところで、色々なものが動いている。お金の流れを知ることで景気を読むことができる。景気が悪いので、学んだことを就職、私生活でも活かしていきたい。32」
- ・「経済学は難しい。でも、日本の経済や世界の産業の動きなどはよくわかった。私たちの住んでいる日本の経済は色々なことにつながっていることがよく解った。授業を通して、毎日、新聞の経済面を見ることを頑張った。今迄新聞を全く見ていなかったが、日本の経済、世界の経済をもっと知ろうと思い、読むことにした。もっと知って学びたい。43」
- ・「日本の経済状況、為替市場について学んだ。プリントや新聞のコピーなどを使っての授業で復習もしやすかった。今迄新聞を読む時、余り経済の記事は難しくて読まなかった。経済状況を社会の常識として知っておきたいと思いました。日本経済について関心が深まった気がしました。47」
- ・「経済については需要と供給ぐらいしかわかっていませんでした。授業を通じ、たくさん事を学ぶことができた。経済を把握していると社会で役立つと思う。新聞の経済記事も今まで読んでいなかったが、チェックするように心掛けようと思う。常に日本の経済状況が分かるようにしておきたい。48」
- ・「以前は経済や世界の様々な動きなど知識もなく、興味もなかった。授業を通し、経済の動きにとっても興味を持つようになり、これから社会人として生きていくのにとっても重要な知識だと感じるようになった。特に、第12講の「雇用と賃金」はとっても興味深く学ぶことができた。年々

厳しくなっている就職率だが、失業率も高まり、現在リストラで苦しんでいる人もたくさんいる。そんな中、来年就活が本格的に始まるが、どのような準備が必要か、社会は何を求めているかを知る必要があると感じている。また、毎回配布の新聞切り抜きのお陰で、読まなかった新聞を読むようになり、これからも続けていきたいと思う。61]

- ・「経済学はもちろん一般的な知識も学べ、とても為になった。知らなかった経済用語、首相・大臣の名前など、沢山発見することができた。経済を学ぶことは社会では必ず役に立つので、これをきっかけにニュースや新聞で知識をより深め自分のものにしていこうと思った。現在、不景気の影響で、株価が安定せず、失業者集も年々増えている。この不安定な経済状況をきちんと把握し、来年の就職活動に挑もうと思う。今の経済におけるキーワードは環境だと聞いている。省エネ、エコ活動にもっと力を入れるべきだ。一人一人の努力が経済の潤滑油になると思う。テスト頑張ります。63]
- ・「新聞を読むようになり、ニュースをよく目にするようになったりと、日常生活の様々な社会問題に興味を持つことができるようになった。通学時通る本通りのある証券会社は、毎日株価を表示しており、毎朝見るようにしている。また、社会問題は知っているのが当たり前である。就職でも SPI や一般常識が必要だ。夏休みには問題集をたくさんやって、新聞も毎日読むようにし、全チャンネルのニュースを見ると言う目標を立てて頑張りたい。62]
- ・「今迄学んだことのない分野で、分からないことや知らないことが沢山あった。知らない単語も多い。今後社会人になるにあたって、とても大切で必要な知識だなと感じた。まだ全部理解できていないが、もっと積極的に学んでいきたい。株価などは、正直今でも全く興味がなく、知らなかったが、この授業を通して知ることができた。円安、円高なども深く学べて良かった。これからの人生に役立てていきたい。70]

(3) 飽きない授業

- ・「ドル安・円高など、経済は苦手でした。授業では新聞など身近なところから学べ、分かりやすかった。これからは進んで学び、世の中の動きが分かるようになりたい。政治も知らないことが多く、政治番組やニュースを見て力をつけたい。14]
- ・「この授業を受けて、物価の日々の変動に興味をもつようになった。テストは不安。社会に出るには、経済学についてはもっと詳しく解っておくべきだと思う。19]
- ・「自分が社会についてどれだけ知らないのかを実感した。ニュースを見たり、新聞を読む努力をしたい。日経平均株価などは毎日変わり、政権交代、総理大臣が代わる等、常に社会は動いているので、しっかりついていきたい。プリントは図やグラフがたくさんあり、文章も短くまとまっており、とてもわかりやすく、勉強しやすかった。夏休みも、しっかり新聞を読み、新聞に慣れたい。そして、しっかり社会の動きを見ていきたい。35]
- ・「毎回、株価や円相場について触れるので、世界の動きを知ることができた。中学・高校の授業で学んだことも出てきたが、内容はかなり深く、興味がわき、とても面白い授業だった。日本の経済状況から世界の経済状況まで世界各地の経済の動きを知ることができた。今日の授業は50年後の日本の人口—現在と2050年の年齢構成の比較—が一番目立つ内容だった。50年後は人口も減少し、若年層は減り、高齢者は増加していた。現在でも高齢化が大きな問題であるなか、将来どうなるのだろうかとても不安に感じた。授業を通じ、常に社会は私たちの周りで動いていることが分かった。これからも経済を理解しながら生活していくことは必要だと思った。現在の経済がよい方向になってほしいと思う。60]

- ・「難しいことが世界には沢山あることを知った。株は仕組みが分かって、楽しかった。時代の流れを知り、自分の無知を再確認できた。新聞をよく読むようにしたい。76」
- (4) その他—授業方法への「感想」
- ・「配布資料は、文字の大きさ、色付けすると、もっと見やすかった。株価指数が毎回出るのは新聞をとっていないので助かった。答え合わせは聞こえない部分もあり、プリントしてほしかった。8」
- ・「プリントは何時も大事なところだけまとめてあって、とても分かりやすかった。新聞記事の活用で、具体的に理解することができた。時々マイクが途切れ、分からないことがあったので配慮いただければ幸いです。授業を通して、経済に目を向けていないことに気づいたので、新聞を読んだりして知識を身につけたいと思う。景気は常に変動するので、欠かさずチェックしたい。社会で起こる出来事の対する自分の意見を持ち、言えるようになりたい。テスト頑張っ
て何とか追試だけは免れたい。28」
- ・「プリントにない話もあり、何をやっているか、どこが重要かわからないことが多々ありました。プリントも細かく書いてあるところと書いていないところで差があり、太字、網掛けもなく、解りにくかったので重要な単語は太字にする等したほうが良いと思う。新聞を使った授業のお陰で、新聞を読む習慣が身につく、力がついたと感じます。新聞を読む力がついたので、余り関心の無かった時事問題にも関心が持て、考える機会が増えたのでよい経験になったと思う。34」
- ・「この授業は楽しいです。質問するとすぐ答えてくれて、よく理解することができた。経済の働きや様々な用語も学ぶことができた。後はテスト頑張ります。プリントを見返し、まとめて勉強します。115」

4. ま と め

学生の「課題探求能力」を育成するための授業とは何か。単なる教養としての経済学ではなく、自分自身の経済の見方、考え方を今後とも切磋琢磨して確立してほしいとの思いで授業を行っている。今後とも、学生が自主的に勉強したい経済学となるように授業を改善していきたい。

む す び

秘書科が取り組む教育 GP「『課題探求能力』の育成を目指す教育取組—教育課程と教育課程外諸活動を統合する DIY 教育システムの構築—」は、副題にあるように教育課程と教育課程外諸活動を統合する DIY 教育システムのもとにある取組である。

本稿は、DIY 教育システムにおいて、秘書科カリキュラムポリシーの一柱であるビジネス科目のひとつである「経済学概論」がどのように位置付けられ、また、どのような授業方法で行われ、課題探求能力の育成が可能かを問うものであり、試行錯誤は続くものの、学生の感想を読むにつれ、十分に可能であるという確信を持つに至っているという現状報告書である。

参 考 文 献

- 1) 仁井和彦「「プロジェクトワーク」取り組みにおける—考察—産学連携プロジェクトの進め方と女子短期

大学の今後―』『安田女子大学紀要』第34号, 2006, p.121-128

- 2) 仁井和彦, 吉田行宏, 立花知香 「「課題探求能力」の育成を目指す DIY 教育システム―愛されて20年秘書科の挑戦―(最近の試み)」『安田女子大学紀要』第37号, 2009, p.265-277
- 3) 仁井和彦, 吉田行宏, 立花知香 「体験を内面化し, 定着させるための試み―安田女子短期大学秘書科の教育プログラム」『ヒューマンスキル教育研究』秘書サービス接遇教育協会, 第17号, p.62-68

Summary

This progress report on the Education Good Practice Program states that the “DIY” Education System is applicable to lecture “ECONOMICS” which may not be directly related to DIY education system.

[2010. 10. 4 受理]